

1 目指すべき地域のすがた

急激な人口減少と超高齢化の進行，社会経済のグローバル化などにより，地域をとりまく状況は大きく変化しており，また，ものの豊かさよりも心の豊かさを重視する方向への価値観の変化や，社会との関わり方・家族のあり方などのライフスタイルの多様化が進んでいます。これらに対応するために，県内各地域の個性と多様な地域資源を最大限に活かした地域づくりを行っていくことが求められています。

こうしたことを踏まえ，多様性を認め合うとともに，都市住民の「地域志向」にも対応した，一人ひとりが生きがいや充実感を感じ，豊かな活動ができる地域づくりに取り組みます。

また，地域の特性を活かした産業の振興や雇用の場の確保，交流人口の拡大などにより，活力が維持され，成熟した地域づくりに取り組みます。

さらに，生活の安全と安心を求める意識の高まりを受け，大規模自然災害などへの対応力や，医療・保健・福祉，食の安全確保などが充実した地域づくりを進めていくとともに，安心して子育てができ，誰もが安全・安心に住み続けることができる地域づくりに取り組みます。

2 地域づくりを推進していくための視点

（1）新しい「協働」による地域づくり

支え合いと活気ある地域社会をつくるため，県民，ボランティア，NPO や産学官金労言（産業界，大学，行政，金融機関，労働界，マスコミ）など，多様な主体の自発的な参加と連携による地域づくりを推進します。

また，女性や若者，元気な高齢者をはじめ社会に貢献したいと思っている人が，地域づくりの担い手として積極的に参加できる仕組みや，各主体の活動を支援する環境を整備し，県民一人ひとりとの関わりによる地域づくりを推進します。

特に，少子高齢化・過疎化などにより地域の担い手が減少し，コミュニティ機能が著しく低下することが懸念される地域集落については，地域の意向を十分に踏まえ，これまで地域づくりに参加していない主体との新たな連携など，地域の実状に応じた取組を支援し，コミュニティ機能の維持・強化に努めます。

（2）愛着や誇りの持てる地域づくり

自然，歴史・伝統，芸術・文化，食などの多様な地域の魅力を発見・理解し，それを地域間や国内外の交流を通じて効果的に訴求することにより，県民や地域に関わる人々誰もが愛着や誇りを持つとともに，地域の魅力が国内外から高く評価される地域づくりを推進します。

（3）地域間連携と広域的な視点に立った地域づくり

大規模自然災害等への対応や、地域医療が抱える課題など、多様化・高度化・広域化する行政課題への的確な対応が求められており、自治体同士が協力・連携し、行政の効率化とサービスの向上を図る必要があることから、地域間連携により、人口減少、少子・高齢社会にあっても持続可能な地域づくりを推進します。

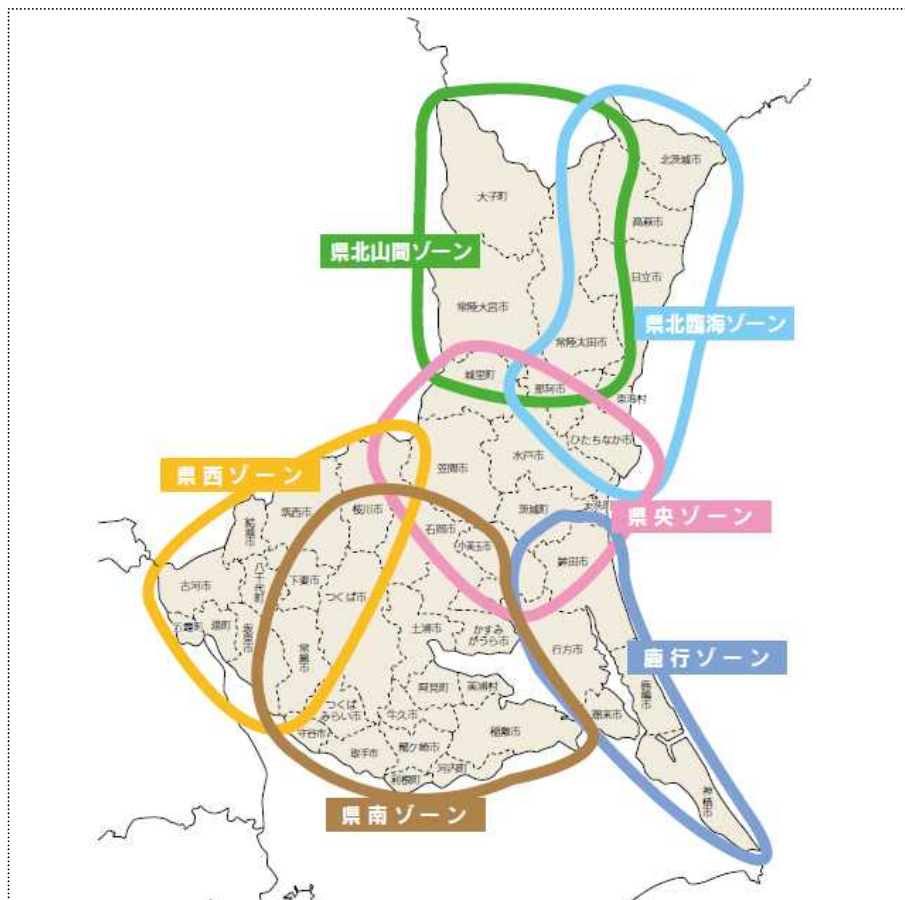
また、広域交通ネットワークを活かし、東京圏及び国内外との連携と交流を視野に入れた、広域的な視点に立った地域づくりを推進します。

3 地域区分

社会経済の結びつきや地理的、歴史的条件などを踏まえ、地域固有の特性や課題を共有し、一体的な地域づくりを効果的に推進する観点から、「県北山間」、「県北臨海」、「県央」、「鹿行」、「県南」、「県西」の6つの地域に区分しています。

また、経済活動や県民生活の範囲が広域化し、多様な主体が市町村の区域にとらわれない活動を進めていることから、地域区分の境界を市町村界で区分せず、弾力的に捉えたゾーンとしています。

さらに、近年の動向を踏まえながら、基本となるゾーンを越える課題に対応するため、各ゾーンを横断する取組についても、積極的に連携を図ります。



4 地域づくりの方向

(1) 県北山間ゾーン

【特性と課題】

県北山間ゾーンは、久慈川、那珂川などの清流や八溝山系の山並み、滝や溪谷、里山などの豊かな自然環境を有する地域です。

この地域では、こうした自然を活かした米や野菜が生産されているほか、木材、生漆、しいたけ等の特用林産物、常陸牛などの生産振興が図られています。

また、袋田の滝や竜神峡、西山荘等の名所旧跡、温泉、食などの観光資源にも恵まれ、県内外から多くの人々が訪れていることから、交流・二地域居住やグリーン・ツーリズムなどによる交流を進めていくことが期待されています。

一方、中山間地域を中心に人口減少や少子高齢化・過疎化が急速に進展しており、住民が安全・安心で快適に暮らしていくためには、定住人口の減少を少しでも食い止めるとともに、交流人口の拡大などにより地域の活性化を図っていく必要があります。

地域のキーワード

- ・ 中山間地域の特性を活かした農林畜産業
- ・ 豊かな自然や、歴史・伝統、温泉、食などの多様な地域資源、グリーン・ツーリズム
- ・ 移住・二地域居住

【地域づくりの方向】

■ 地域の特性を活かした農林業など地域産業の振興

農業生産基盤の整備を推進するとともに、県産材流通・加工体制の整備や、常陸秋そば等の農産物や常陸牛、奥久慈しゃも等の銘柄畜産物のブランド力強化など、地域特性を活かした農林業や地場産業の振興を図ります。

また、多様な農業者等による地域農業の維持・発展のため、きめ細やかな支援による新規就農者や定年帰農者の確保、援農ボランティアや農産物のオーナー制度など都市農村交流の促進により、農林業等の新たな担い手の確保、育成を図ります。

さらに、中山間地域の活性化を図るため、特産物等の産地育成、農産物直売所や道の駅の活用、大学連携や地域おこし協力隊など外部人材を活用したアグリビジネスモデルの創出に取り組みます。

加えて、宮の郷工業団地への企業誘致や、新たなビジネス展開への支援などにより地域産業の振興を図り、働く場を創出し、定住人口の確保に努めます。

■ 中山間地域等における安全・安心な生活空間の確保

へき地医療の充実や、医師、看護職員等医療従事者の確保対策の推進、地域包括ケアシステムの構築など、医療・保健・福祉の充実を図ります。

また、生活バス路線の確保や JR 水郡線の輸送力強化などによる交通利便性の向上、携帯電話等サービスの利用できない地域の解消、国道 461 号や国道 118 号袋田バイパスなどの幹線道路や下水道の整備など生活環境基盤の充実を図るとともに、基幹集落の機能強化や複数集落のネットワーク化を図り、住民が安心して暮らせる環境を確保します。

■豊かな自然環境を活かした交流空間の形成

豊かな自然環境を活かしたライフスタイル「いばらき さとやま生活」の発信により、地域の認知度の向上を図るとともに、特に、東京圏の住民との継続的な交流の促進や空き家等を活用したお試し居住などにより、移住・二地域居住を推進します。

また、清流や里山、温泉、食、歴史、芸術・文化、ジオポイントなど多様な地域資源を活かした、グリーン・ツーリズムや教育・研修旅行を推進するとともに、周遊観光バスの運行や、農産物直売所・道の駅の活用、広域交流を促進する道路の整備などにより、周遊型観光ネットワークの形成を図ります。

さらに、茨城県北芸術祭などを契機に、地域の魅力を効果的に発信し、交流人口の拡大などによる地域の活性化を図ります。

加えて、FIT 構想に基づき、豊かな地域資源などを活かしながら、県際地域における広域的な交流圏づくりを推進します。

(2) 県北臨海ゾーン

【特性と課題】

県北臨海ゾーンは、久慈川、那珂川の下流に広がる平坦地や変化に富んだ海岸線など、特色ある自然環境を有する地域です。

この地域では、常磐自動車道や北関東自動車道、茨城港日立港区・常陸那珂港区など、国内外を結ぶ広域交通ネットワークが整備され、日立地区を中心とした高度なものづくり産業の集積や、東海地区での世界最高性能の研究施設 J-PARC の立地など先端産業地域の形成が図られています。

また、五浦海岸や花貫溪谷、天心記念五浦美術館等の文化・観光施設、産業遺産、食などの資源にも恵まれ、県内外から多くの人々が訪れていることから、交流・二地域居住やブルー・ツーリズムなどによる交流を進めていくことが期待されています。

一方、産業の空洞化や人口減少など様々な課題もあることから、産業の活性化と働く場の確保、医療や福祉などの生活環境基盤の充実、交流人口の拡大を図り、定住人口の確保につなげ、地域の発展を図っていくことが必要となっています。

地域のキーワード

- ・日立地区を中心とした高度なものづくり産業の集積
- ・変化に富んだ海岸線や伝統、芸術・文化などの地域資源、ブルー・ツーリズム
- ・移住・二地域居住

【地域づくりの方向】

■ものづくり産業の集積や広域交通ネットワークを活かした産業拠点づくりと農林水産業の振興

北関東自動車道や港湾などの広域交通ネットワークを活かした日立・ひたちなか・那珂地区などへの産業集積や、いばらき量子ビーム研究センターを拠点とした産学官共同研究の推進などを図るほか、茨城港日立港区における LNG 基地及び供給パイプラインを活用した企業立地の促進や、中小企業の新たな事業活動による技術・経営力の向上などの取組を推進します。

また、日立産業技術専門学院でのものづくり人材の育成や、高度な技能の継承を支援するなど、地域産業を担う人づくりを進めるとともに、起業支援や今後成長が見込まれる企業等の誘致により、付加価値の高い産業の創出を図ります。

さらに、農業生産基盤整備の推進や、農林水産業の6次産業化やブランド化による農林水産物の付加価値向上、輸出促進等による需要開拓の取組を推進します。

■安心で快適な臨海都市圏の形成

救急医療体制の充実や、医師、看護職員等医療従事者の確保対策の推進、地域包括ケアシステムの構築など、医療・保健・福祉の充実を図ります。

また、勿来バイパスをはじめとする国道6号バイパス等の幹線道路の整備や、ひたちBRTの促進など生活交通サービスの充実を図るとともに、風評の払拭や津波などの大規模災害対策、原子力安全対策の推進を図ります。

■豊かな自然環境を活かした交流空間の形成

豊かな自然環境を活かしたライフスタイル「いばらき さとやま生活」の発信により、地域の認知度の向上を図るとともに、特に、東京圏の住民との継続的な交流の促進や空き家等を活用したお試し居住などにより、移住・二地域居住を推進します。

また、変化に富んだ海岸線、食、歴史、産業遺産、芸術・文化、ジオポイントなど多様な地域資源を活かし、ブルー・ツーリズムや教育・研修旅行を推進するとともに、周遊観光バスの運行や農産物直売所・道の駅の活用、広域交流を促進する道路の整備などにより、周遊型観光ネットワークの形成を図ります。

さらに、茨城県北芸術祭などを契機に、地域の魅力を効果的に発信し、交流人口の拡大などによる地域の活性化を図ります。

加えて、FIT構想に基づき、豊かな地域資源などを活かしながら、県際地域における広域的な交流圏づくりを推進します。

(3) 県央ゾーン

【特性と課題】

県央ゾーンは、県や国の機関をはじめ、商業施設や企業の本・支店、美術館や美術館など、行政・経済・文化機能が集中する県都水戸市を中心とし、JR常磐線、水戸線、国道6号・50号など東西南北に広がる交通ネットワークを背景に、産業と人口の集積が図られ発展してきている地域です。

また、大洗海岸・涸沼・那珂川などの海や湖沼・河川、広大な平坦地と緑豊かな丘陵地など、変化に富んだ自然に恵まれ、野菜や果樹、魚介類などの豊富な農林水産物、史跡などの数多くの文化財、伝統的工芸品である「笠間焼」といった多くの地域資源やショッピングモールなどを有し、それらを活かした観光・レクリエーション地域として、県内外から多くの人々が訪れています。

一方、ひたちなか地区をはじめとして、県都周辺においても都市機能の充実が図られており、今後も、県都と周辺都市の連携により、商業・業務、教育、娯楽や医療・福祉等の都市機能が充実した中核的な都市づくりを一層進めていく必要があります。

さらに、北関東自動車道、東関東自動車道水戸線、茨城空港、茨城港常陸那珂港区・大洗港区などの充実した広域交通ネットワークを活かし、北関東地域ばかりでなく、アジア

地域などの海外展開を視野に、観光交流拠点や産業拠点の形成、新たな市場ニーズに対応した農林水産物の安定的供給ルートの確立などを図っていくことが求められています。

地域のキーワード

- ・ 県都水戸を中心とした都市圏づくり
- ・ 県内有数の集客力のある自然資源、歴史的遺産、芸術・文化施設、レジャー施設等
- ・ 国内外を結ぶ陸・海・空の広域交通ネットワークの要衝

【地域づくりの方向】

■都市機能の充実した中核的な都市圏づくり

県都水戸を中心とした地域においては、市街地活性化に向けた再開発事業等の促進、救急医療体制の充実、公園整備など、自然と都市機能が調和した良好な居住環境の更なる形成促進を図ります。

また、定住自立圏の形成など、周辺市町村の特徴を活かした相互の連携・協力体制を一層推進することにより、圏域全体で必要な生活機能の確保を図ります。

さらに、幹線道路や茨城港の整備など交通体系の強化や、ひたちなか地区などと連携した、国内外の玄関口として相応しい高次都市機能の一層の充実を図るほか、津波などの大規模災害対策、原子力安全対策の推進を図り、誰もが安心・快適な生活環境を実感できる中核的な都市圏づくりを進めます。

■自然、歴史・伝統、芸術・文化を活かした交流空間の形成

大洗海岸やラムサール条約湿地に登録された潤沼などの自然、日本遺産に認定された偕楽園や弘道館などの歴史的遺産、水戸芸術館や陶芸美術館などの芸術・文化施設をはじめ、国営ひたち海浜公園等集客力のあるレジャー施設や大型商業施設など、この地域が持つ多様な観光資源を活用し、より周遊・滞在しやすい、北関東有数の質の高い交流空間の形成を図ります。

さらに、北関東自動車道、茨城空港など充実した広域交通ネットワークを活用し、近隣都県との連携を図りながら、地域ブランド力や情報発信力の強化を進めることにより、広域観光ネットワークの形成や国際交流拠点の整備促進を図ります。

■広域交通ネットワークを活かした産業拠点の形成と地域特性を活かした産業の活性化

茨城港常陸那珂港区・大洗港区など産業基盤の整備・強化を図り、国内外を結ぶ陸・海・空の交通の要衝としての優位性や、世界最高性能の研究施設 J-PARC が立地する東海地区との近接性を活かし、企業誘致や空港及び港湾の路線・航路の拡充などにより産業拠点の形成を図ります。

また、笠間市やその周辺における窯業や石材業等について、笠間陶芸大学校等の教育・試験研究機能などを活かし、伝統的工芸品である「笠間焼」や石材業などの地場産業の活性化を図るとともに、米、干し芋、栗など農商工連携による新商品の開発促進や特産品のブランド化、笠間クラインガルテンなど農業体験型施設の活用などにより、農林水産業の活性化を図ります。

(4) 鹿行ゾーン

【特性と課題】

鹿行ゾーンは、鹿島灘や霞ヶ浦・北浦などに囲まれ、肥沃な行方大地など、豊かな自然を有し、園芸作物・畜産などの多様な農業生産活動や水産業が盛んに行われるなど、豊富な農林水産物に恵まれた地域となっています。

また、鹿島港を中心とする鹿島臨海工業地帯では、鉄鋼・石油化学などの素材産業が集積しており、本県はもとより我が国を代表する一大産業拠点を形成しています。

さらに、鹿島神宮などの歴史的・文化的資産や霞ヶ浦・北浦、鹿島灘などの豊かな水辺環境を有するとともに、カシマサッカースタジアムなどを中心とするスポーツ・レクリエーション拠点が形成されています。

一方、この地域は、東関東自動車道水戸線や国道 51 号、JR 鹿島線、高速バスなどにより首都圏と結ばれており、首都圏の食糧供給基地として、安全・安心で高品質な食の提供や、農林水産物の認知度向上・高付加価値な商品づくりが期待されています。

また、鹿島港の整備推進等によるコンビナートの国際競争力の更なる強化や、雇用の場の維持確保に努めるほか、液状化対策の推進など、安全で安心して働ける快適な居住環境の形成が求められています。

今後、東関東自動車道水戸線の一部開通や茨城空港などの交通インフラの効果を活かし、農水産物の販売促進や企業誘致による更なる雇用の確保、国内外との交流人口の拡大を図っていくことが求められています。

地域のキーワード

- ・首都圏の食を支える食糧供給基地
- ・鹿島臨海工業地帯における一大産業拠点
- ・カシマサッカースタジアム、霞ヶ浦自転車道などのスポーツ・レクリエーション拠点

【地域づくりの方向】

■首都圏の食を支える食糧供給基地の形成・強化

首都圏との近接性という地理的条件を活かし、地域の基幹作物であるメロン、ピーマン、かんしょなどの経営安定化や、鹿島灘や霞ヶ浦・北浦におけるつくり育て管理する漁業の実践の促進など、消費者ニーズに応える安全・安心で高品質な農林水産物の安定供給を図ることなどにより、首都圏の食を支える食糧供給基地の形成・強化を図ります。

また、この地域における儲かる農業の実現を目指し、農商工連携による体験型農業施設などの取組や特産品の独自ブランド化の一層の促進を図ります。

■競争力のある工業地帯の形成

グローバル競争が激化し、鹿島臨海工業地帯の主力産業である鉄鋼、石油化学等の基礎素材産業を取り巻く環境が厳しさを増すなか、鹿島臨海工業地帯については、規制の合理化や鹿島港の機能強化、企業間連携などにより、地域産業の更なる競争力強化を促進し、国際競争力のある一大産業拠点を形成します。

また、東関東自動車道水戸線などの整備を促進し、北浦複合団地等、沿線地域への企業誘致の更なる推進と雇用の創出を図ります。

■自然環境やスポーツを活かした魅力ある交流空間の形成と安心・快適な生活環境の整備

豊かな水辺空間やカシマサッカースタジアム、霞ヶ浦自転車道でのサイクリングなどの地域資源を活かした観光ネットワークの形成、スポーツ交流の拡大を図るとともに、茨城空港や成田空港の利用者を誘導し、国際的な観光・交流の推進を図るなど、魅力ある交流空間を形成します。

また、生活排水の高度処理などによる霞ヶ浦・北浦の水質浄化の促進、砂浜の浸食対策や海岸防災林の維持造成などによる海岸の保全を図るとともに、国や市町村、関係機関などと連携を図りながら液状化対策の取組を進めます。

さらに、風力発電など地球環境に配慮した再生可能エネルギーの普及促進、津波などの大規模自然災害対策、河川改修の促進、上下水道の整備促進、医師、看護職員等医療従事者の確保対策の推進、救急医療体制の充実などにより、安心・快適な生活環境の整備を図ります。

(5) 県南ゾーン

【特性と課題】

県南ゾーンは、東京圏に近接し、常磐自動車道、JR常磐線、つくばエクスプレスなどの交通体系の整備を背景に都市化が進展する一方で、筑波山や霞ヶ浦などの豊かな水と緑に恵まれ、稲敷地域においては広大な水田が広がり、農業経営の大規模化が進んでいます。

つくばには、国や企業などの研究機関が集積しており、世界最先端の科学技術を活かした「科学技術創造立国日本」を支える重要な拠点づくりを進めるとともに、首都圏中央連絡自動車道の一部開通により、成田国際空港との時間的距離が短縮されるなど、広域交通ネットワークの更なる充実にあわせた産業集積の促進や国際化の推進が求められています。

また、広域幹線道路などの交通基盤整備の促進、自然環境や景観の保全などにより、住みよい魅力的な生活環境づくりを進めるとともに、市街地の活性化などによる自然と都市的快適さが調和した魅力あるまちづくりを進めることで、つくば・土浦を中心とした中核的な都市圏を形成することが期待されています。

さらに、筑波山や霞ヶ浦などの自然環境、歴史・文化などを活かした交流空間の形成を図るとともに、稲敷地域の平坦で広大な農地を活用した農業の更なる振興や霞ヶ浦等への負荷を軽減した環境にやさしい農業の推進を図っていく必要があります。

地域のキーワード

- ・つくばにおける科学技術の集積と、つくばエクスプレス沿線地域の魅力的な生活環境
- ・稲敷地域などの大規模水田農業
- ・本県を代表する筑波山や霞ヶ浦などの自然資源

【地域づくりの方向】

■科学技術の集積や広域交通ネットワークを活かした産業拠点づくり

つくばにおける科学技術の集積効果を高めるため、大学や研究機関の連携を促進し、ナノテクやロボット技術などの最先端の研究開発拠点や、より高度な研究開発型企業の集積を進め、新たなベンチャー企業の育成や新事業・新産業の更なる創出を図ります。

また、首都圏中央連絡自動車道やつくばエクスプレス等の広域交通ネットワークを活か

し、先端産業や生活関連産業などの一層の集積を図ります。

加えて、広大な農地や東京圏との近接性を活かした、稲敷地域を中心とした安定的な水田経営の推進や、霞ヶ浦沿岸地域におけるレンコンやわかさぎなど主要農水産物のブランド確立やエコ農業茨城の推進など、消費者ニーズに応えられる産地づくりを進めるとともに、農商工連携による加工品の開発や、観光農園などの農業体験等を農業経営に含めたアグリビジネスを推進します

■自然と都市機能が調和した住みよい魅力的な生活環境づくり

首都圏中央連絡自動車道や広域幹線道路などの整備を促進するとともに、JR 常磐線の東京駅乗り入れ本数の増大やつくばエクスプレスの東京延伸の促進等により、東京圏との近接性や広域交通ネットワークを活かした生活環境基盤の充実を図ります。

また、県民、研究者、企業、行政のパートナーシップのもと、世界湖沼会議の開催なども契機としながら、調査研究・技術開発、環境学習、市民活動などによる霞ヶ浦の水質保全活動を推進します。

さらに、つくばエクスプレス沿線ならではの質の高い住環境や最先端科学技術の集積を活用したまちづくりを進めるとともに、「つくばスタイル」の PR によるイメージアップや市街地の活性化、新市街地の整備促進などにより、自然と都市機能が調和した住みよい魅力的な生活環境づくりを進めます。

■自然、芸術・文化、科学などを活かした多彩な交流空間の形成

筑波山や霞ヶ浦などの豊かな自然環境を活かし、(仮称)水郷筑波サイクリングロードの環境整備を推進するなど、観光、スポーツ・レクリエーションの充実を図るとともに、道の駅や市民農園の整備などによる都市農村交流の促進、つくばの科学技術、芸術系大学やアークスプロジェクトなどの芸術・文化などを活かした魅力ある観光ネットワーク・交流空間の形成を図ります。

また、G7 茨城・つくば科学技術大臣会合などを契機とした国際会議等の誘致や東京オリンピックの開催効果を活かした国際交流の更なる促進を図ります。

(6) 県西ゾーン

【特性と課題】

県西ゾーンは、国道新 4 号や国道 50 号などの幹線道路の整備によって企業の立地が進んでいるとともに、今後、首都圏中央連絡自動車道など広域交通ネットワークの整備進展により、古河市及び周辺地区における裾野の広い自動車産業の集積による地域産業の活性化や、高速道路インターチェンジ周辺での新たな産業拠点の形成が期待されています。

また、筑波山麓に広がる肥沃で広大な平坦地を有し、東京圏に近いという地理的優位性を活かして、園芸作物を中心とした農業が展開されているとともに、伝統的工芸品や石材業などの地場産業が盛んな地域です。

また、定住人口や交流人口の拡大を図るため、JR 東北本線、水戸線及び関東鉄道常総線などの鉄道沿線地域では、東京圏との近接性を活かした良好な住環境の整備による快適な生活環境づくりを進めることが求められています。

さらに、重要伝統的建造物群保存地区に選定された桜川市真壁地区の歴史的街並みや、利根川、鬼怒川、小貝川の水辺空間、多くの平地林など、多様な資源を活かした魅力的な

交流空間の形成を進めることが求められています。

この他、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨による記録的な水害からの速やかな復旧も強く求められています。

地域のキーワード

- ・古河市及び周辺地区における裾野の広い自動車関連産業の集積
- ・東京圏との近接性を活かした大規模園芸産地
- ・桜川市真壁地区、古河・結城などの歴史的・文化的資源

【地域づくりの方向】

■広域交通ネットワークの形成を活かした新たな産業拠点づくりと地域産業の活性化

北関東自動車道や首都圏中央連絡自動車道、筑西幹線道路等の広域交通ネットワークを活かし、高速道路インターチェンジ周辺地域などに自動車産業や流通業など多様な企業の拠点形成を促進し、北関東地域における新たな産業拠点づくりを進めるとともに、新規立地企業との連携による地元企業の技術力や開発力の向上など、地域産業の活性化を図ります。

また、地域農業を支える中核的な担い手の育成や新しい担い手の確保などを図るとともに、農業生産基盤整備の推進や新たな品目の導入等による大規模園芸産地の育成を図り、消費者ニーズ等に対応した安全・安心で高品質な農産物の安定供給を図ります。

さらに、東京圏に近接し、米、畜産をはじめレタス、ハクサイ、ネギ等全国有数の産地を数多く有する地域特性を活かし、さらなる PR や輸出の促進等販路拡大を進めます。

加えて、「結城紬」や「真壁石燈籠」といった伝統的工芸品や石材業等の商品開発支援・後継者育成などにより、地場産業の振興を図ります。

■安心で快適に暮らせる良好な生活環境づくり

東京圏との近接性を最大限に活かすため、つくばエクスプレスや首都圏中央連絡自動車道などの波及効果を活用し、鉄道沿線地域等における交通利便性の向上や市街地整備を促進します。

また、誰もが安心して快適に暮らせるよう広域的な幹線道路の整備促進や、下水道などの生活環境基盤の整備を進めるとともに、医師、看護職員等医療従事者の確保対策の推進、急性期医療機能の充実など地域医療体制の整備などによる良好な生活環境の創出を図ります。

さらに、平成 27 年 9 月関東・東北豪雨による被害からの早期復旧に取り組みます。

■歴史・文化や豊かな自然環境を活かした交流空間の形成

ミュージアムパーク茨城県自然博物館や利根川、小貝川、鬼怒川の水辺空間など豊かな自然環境や、桜川市真壁地区をはじめ、古河や結城などの歴史的街並みや史跡等歴史的・文化的資源を活用した魅力ある交流空間の形成を促進します。

また、映画・テレビのロケ地など多様な主体の参画による観光地づくりを推進し、首都圏中央連絡自動車道の整備等による東京圏とのアクセス向上を活かした交流人口の拡大を図ります。

5 ゾーンを横断する取組

交通網の整備や情報通信手段の急速な発達・普及により、県民の活動範囲は行政区域を越えて飛躍的に広域化しており、広域的なまちづくりや施策に対するニーズが高まっています。

このため、従来のゾーン区分だけでは完結しない、また、より広域的な連携を図ることにより地域の発展につながるゾーンを横断する取組を推進し、県全体の発展を図ります。

取組の視点としては、県を横断する広域的な連携や、地域産業の振興、自然環境や芸術・文化などに着目した地域づくり、高速道路や鉄道ネットワークを活かした地域の連携などが考えられます。

【具体的な事例】

■県を横断する広域的な連携

- ・ FIT 構想の推進による多様な分野での交流、一体的な広域交流圏の形成

■地域産業の振興

- ・ つくば・東海地区の最先端科学技術をはじめとする知的集積と日立地区のものづくり産業などの産業集積を結びつけたイノベーションの創出による先端産業地域の形成
- ・ 伝統的工芸品として国の指定を受けている「結城紬」、「笠間焼」、「真壁石燈籠」の産地が連携した産地の活性化

■自然環境や芸術・文化などに着目した地域づくり

- ・ 筑波山・霞ヶ浦周辺エリアにおけるサイクリング環境の整備
- ・ アーカスプロジェクト、茨城県北芸術祭など現代アート活用した地域づくり

■高速道路や鉄道ネットワークを活用した地域の連携

- ・ 首都圏中央連絡自動車道沿線の市町村の連携による、産業集積及び交流の促進による地域活性化
- ・ つくばエクスプレスや関東鉄道常総線沿線の市町村の連携による、鉄道の利用促進や沿線地域の活性化